



『まるごと』入門 (A1) <りかい> 教え方のポイント

1. 授業の構成の目安 (1 課あたり 120 分目安)

トピック扉を見る／勉強する前に (5 分程度)

トピック扉を見たり、「勉強する前に」の質問から、どのような文脈・場面の中で学習項目となる日本語 (文字、語い、文型や文法) を使うか知る。

もじとことば (30 分程度)

<かつどう>で導入された語いに加えて、新しい語いが入っているので、<ごいちょう>をダウンロードして、見ながら「もじとことば」を行う。事前学習にしてもよい。語い練習の方法は、イラストを見て文字を選ぶタイプ、対・グループになるものを整理するタイプ、コロケーション (使用頻度の高い名詞と動詞の組み合わせ、文脈による適語選択) などがある。「どれが違いますか」という問題 (p.37、p.77、p.119 など) は、正解が 1 つしかないわけではない。なぜ違うか、その根拠がはっきりしていればどれを選んでよい。語いの意味を理解し、カテゴリーで整理ができることが重要。

かなの書きとり (単語レベル、特殊拍など) は各課に 4-6 問。第 1 課をするときに、マス目の使い方を説明する。1 拍と数えない拗音は小さいマス目 (「かいしゃいん」は「しゃ」で 1 拍、全部で 5 拍、p.37)、1 拍と数える促音は通常の大サイズのマス目 (「おっと」はそれぞれ 1 拍、合計 3 拍 p.46)。

か	い	し	や	い	ん	お	っ	と
---	---	---	---	---	---	---	---	---

漢字は、語を単位として第 5 課から導入。トピックに関連した漢字が選ばれている。導入後、会話テキストと読解テキストでは漢字表記、いくつかの例外 (日本、東京、～月～日) をのぞいて、練習問題は基本的にかな書き。

※文字指導の考え方 (ひらがな、カタカナ)

コースの必要性に応じて、目標を設定し、文字指導を行ってください。本書では、終了時まで教科書にあることばを 80% 読めるようになること、また、60% 書けるようになることを目標と考えています。そのため、教科書後半はローマ字ルビが減ります。なお、漢字は読めるようになることが目標ですので、書き方の指導は教科書に入っていません。

かいわとぶんぼう②、③、④ (50 分程度)

冒頭の会話は、音声を聞きながら、文脈・場面の中で、文型や文法の意味・機能・形を理解することが重要。次に、構造図を使って文構造や活用を目で見確認する。文脈・場面の中で、読む・聞く・話す・書く、という様々な技能を使って練習し、最終的に自分のこ



とを話す、という流れにした。

※課題遂行に必要な内容に絞った<かつどう>と異なり、<りかい>では文型全体を見せるために話し言葉ではあまり使わないものも扱うなど、文型の示し方に違いがある。とくに、<かつどう>と<りかい>の両方を使う場合は、教師が違いを確認することが必要。[本文書 p.3 文型の対照表]

音声アイコンには、「音声アイコン」と「Check アイコン」の2種類ある。音声を使った活動には以下の3種類ある。

(1) 音声アイコン（聴解練習）：

会話を聞き、意味を理解して答える。(p.38 など)

(2) 音声チェックアイコン（文法・文型練習）：

文字で書かれた問題の答えを記入した後、正解を録音した音声を聞いて、答えを確認する。(p.39 など)

(3) 音声アイコン→音声チェックアイコン：

音声の会話を聞き、意味を理解して答える。

次に、会話の内容を再構成し、(内容がまとめられている文の一部を埋めて完成するなど)、音声チェックの正解を聞いて、書いた答えを確認する。(p.137、p.139 など)

どっかい、さくぶん (30分程度)

会話で学んだ学習項目を別の技能（読解、作文）で定着させる。

読解は、トピックに関係がある内容の短いテキストを読む。読んだ情報を利用して、簡単な課題解決をすることで読む力を養う。また、読んだ後で、感想を言ったり、自分のまわりと比較するなど自分にひきつけて理解する。

読解の音声の使い方として、「はじめに文字を読む、その後音声と一緒に文字を読む」というのが理想的だが、時間がない場合は「音声と一緒に文字を読む」だけでもよい。音声と一緒に文字を読むことで、文字認識や文字の処理速度の向上が期待できる。

作文は、**1**でなぞり書きし、文字の練習を行い、その後**2**で自分のことを書く。独力で全文書くことで、日本語の構造に関する理解・定着を促す。**2**の作文は「テストとふりかえり」の時に使う (p.99 参照)。書かせっぱなしにしたり、教師だけが読んで修正するということはしない。奇数課の作文は『まるごと』の本編にあるが、偶数課の作文は『まるごと』のサイトからダウンロードする。

にほんごチェック (5分程度)

文法・文型、基本文を使って「日本語で言いましょう」の質問に答えられたかどうか、3段階で評価する。母語でコメント（感想）を記入する。時間があったら、クラスで共有する。



文型の対照表:

『まるごと』入門 (A1) 「りかい」の文型のうち、「かつどう」と扱いが異なるもの

課	<りかい>	<かつどう>
L3	NはNです/じゃないです/ですか わたしもNです/わたしはNもできます	(否定は扱わない) 助詞「も」は扱わない→L5
L6	NはイAいです/イAくないです	(否定は扱わない)
L7	Nに(は)Nがいます/Nはいません/だれが いますか/なんにんいますか NはイAです/イAくないです/イAですか	(「います」は扱わない) (否定は扱わない)
L9	いまなんじですか/~じです	(扱わない)
L10	~じかんVます/なんじかんVますか ~はどうですか	(時間の幅は扱わない) (扱わない)
L11	Nができます/Nはできません	(否定は扱わない)
L12	Nに/× Vます いつ/どこでNがありますか/なにがありますか Vにいきます いっしょにVませんか/Vましょう	(扱わない) 「(らいしゅう) Nがあります」のみ 扱う。そのほかは扱わない。 「みにいきます」定型表現扱い 「みにいきませんか」「いきましょう」 定型表現扱い
L13	NでNをおります	「Nでおります」のみ扱う。
L14	NにNがあります/NにNはありません NにNがありますか/Nになにがありますか NはNにあります/Nにはありません NはNにいます/Nにはいません	(扱わない) (扱わない) (扱わない) (扱わない)
L15	Vしました/Vませんでした BはAにNをもらいます	(扱わない) →L17 (扱わない)
L16	これ、それ、あれ Nをください	「これ」のみ 「これ、ください」定型表現扱い
L17	イAかったです/イAくなかったです ナAでした/ナAじゃなかったです	(否定は扱わない) (否定は扱わない)
L18	~。そして、~。 Vたいです/Vたくないです	(扱わない) 「いきたいです」定型表現扱い



2. 各課で注意が必要な事項

トピック1 にほんご

第1課 こんにちは

ひらがなの学習

はじめに「まるごと+ (プラス)」(<http://www.marugotoweb.jp/>) の Writingなどを参考に、日本語の文字(文字の種類と使い方など)について紹介する。また、このサイト(Hiragana、Katakana)には、アニメーションで筆順を見せたり、文字と音を一致させる練習もある。クラス外での個別練習のためにぜひ紹介してほしい。

1. 読み方の練習

練習の目的は、文字(ひらがな)と日本語の音を一致させること。全て音声を使用するが、「音声アイコン」は音声を聞いて答える練習、「チェックアイコン」は練習をした後で、音声を聞いて答えを確認する練習である。本書では、文字と音を覚える(慣れる)まで、ローマ字を補助として使う。学習者の母語によっては、ローマ字表記を教えたり、ローマ字表記で連想される発音と日本語の音のずれに注意する必要がある

2. 書き方の練習

挨拶のことばのひらがな表記では、長音や助詞の「は(ワ)」の発音と表記に注意する。

第2課 もういちど おねがいします

カタカナの学習

練習の形式は、ひらがなと同じ。

カタカナは、外来語や外国の地名や人名の表記に使用される。学習者が自分やクラスメートの名前、関係のある国や町の名前を認識したり、自分の名前が書けるようにする。その際に、原音を離れて日本語の音に変わっているものもあることに注意する。

トピック2 わたし

第3課 どうぞよろしく

②かいわとぶんぼう

国際交流の集まり、日本語のボランティアクラスなどでの場面。カーラさんが、キムさんを見て先生だと勘違いした。この課は会って間もない人々が交流するときのやりとり。

⑤どっかい

相互理解のためにことばを使っている国際カップルの話は、本書にふさわしい内容。自分のまわりにいる国際カップルについてもクラスで話すと楽しい。

第4課 かぞくは3にんです

②かいわとぶんぼう



A1 レベルは自分の家族について言えればいいので、他者の家族については使い分けがわかればよい。覚えなくてもよい。

③かいわとぶんぼう

子どもの年齢を話題にするとき「なんさいですか」、大人の場合には「おいくつですか」を使っているので注意。成人同士が使うときは「おいくつですか」を指導する。

トピック3 たべもの

第5課 なにが すきですか

① もじとことば

②「みそしる」は「のみます」に入れた。<かつどう>では「ごはんのみそしる」をセットにして「たべます」としている。

②かいわとぶんぼう

いっしょにテーブルについて食事をするときの話題として、好きな食べ物や飲み物について話す。否定文では助詞「は」を使うこと（「～は好きじゃないです」）に注意する。

③かいわとぶんぼう

動詞（非過去形）の肯定形と否定形、及び各々と共起する副詞「よく」「あまり」を学習する。⑤は文を並び替えて答えを自分なりに考えてから、音声でチェックする。

④どっかい

両親と娘（社会人）の3人家族の朝ご飯。親子でも食べたいものは少しずつ違う。3人は何が好きか、読み取ること。娘は1人暮らしだが、もし訪ねてきた両親に朝食を準備するならば、という状況設定をするなど、学習者が娘になりかわって考えられるようにすれば2番の問題がより現実的に映るだろう。

第6課 どこで たべますか

① 文字とことば

②料理名に「や」をつけることで店の呼び方になるが、さらに「さん」を加えることで親しみを表現することができる。会話では「さん」をつけたほうが、ぞんざいに聞こえなくていいだろう。すしとそばは「おすし屋さん」「おそば屋さん」と「お」もつくので注意。

②かいわとぶんぼう

②第5課では「～がすきです」を学習するが、ここでは「すきな～」「きれいな～」の形式をとりあげる。成人が会話の中で自分の嗜好について言及する際に「きれいな～」とあえて言うことはあまりない。したがって、<かつどう>では「きれいな～」を発話練習することはない。一方<りかい>はナ形容詞の形式を導入すると同時に「好き」の反意語を示すために、あえて取り上げ、ごく簡単な練習をつけた。

③かいわとぶんぼう

③イ形容詞（非過去形）の肯定形と否定形。否定形は名詞修飾に転用しやすい「～くない



です」のみ。「～くありません」は扱わない。

④の会話は、まず文を並び替えて答えを考えてから、音声でチェックする。

④どっかい

店はレストラン紹介サイトなどでの利用者による評価のイメージ。3人の状況からどの店がいいか、考えること。お金、時間、嫌いな料理はイラストでも示してあるので文字を読むときの参考に見てほしい。

トピック 4 いえ

第7課 へやが 3つ あります

② かいわとぶんぼう

雑談やホームステイなどで人を家に招待するとき、自分の家について話す場面を想定している。ここで学ぶのは、「[場所] に (は) [もの] が あります」、「[場所] に (は) [人、動物] が います」の文型。「[場所] に (は)」の「は」は、少し長いまとまった談話（説明）を始める場合によく使用される。したがって、⑤では、() に一文字（助詞）と考え、「に」を入れる。(には) と書いてもまちがいはない。

第8課 いい へやですね。

②かいわとぶんぼう

訪問先や友だちの家に行って手伝うときに、ものの場所をたずねる場面。場所を示すときの文型「[もの] は [基準となるもの] の [位置] です」を学習する。<かつどう>では、ものを置く場所をしめす表現だったが、<りかい>では、ものが今ある場所を言う表現になっていることに注意する。

④どっかい

書き手のお父さんの部屋に世界の有名なものがあり、それがたなにどのように飾られているか読み取る。お父さんはどんな人か（旅行が好きか、世界中に出張するビジネスマンか、いろいろな国の人と友だちになる社交的な人かなど）、自分の国のものだったら、どんなものがあるか等、考えるのも楽しい。

トピック 5 せいかつ

第9課 なんじにおきますか

③ かいわとぶんぼう

①は世界時計を見ながら時差について話す場面。シンさんはインド出身、カーラさんはフランス出身なので、このようなやりとりをしている。②の①選択肢は、朝・夜と午前・午後が混在しているので注意。午前1時、午前2時は、朝というより午前と答える場合が多いと思われる。②の②のペア練習は1名 (A) は教科書を閉じて、インド、フランス、エジプト、ニュージーランド、アメリカの中から2つか3つ聞く。もう1名 (B) は世界時計を



見て答える。これらの国のほかに、学習者の出身国を追加するとよい。

④ かいわとぶんぼう

②の①は、仕事や生活スタイルによって起きる時間が異なることも、文化理解の一環として取り上げると楽しい。⑤の①は動詞を記入することで、「～時に～する」の理解・定着を促す。③は、自分のことを話す。学習者同士の人間関係作りにつながるし、自分の言いたいことを話せたという達成感が重要。

A1 レベルの学習者は事前準備が必須なので、時間（数字）をメモしてから話させる。起きてから寝るまでの行動を細かく言うのではなく、⑤の例のように自分の生活を伝える行動を選んで言う。「まいにちいそがしいです」のかわりに、「のんびりしています/たのしいです」など、必要に応じて教えてもよい。

④ どっかい

いろいろな生活スタイルがあることを理解する。田中さんとクリスティーナさんの生活行動を自分と比べてみると楽しい。

第10課 いつがいいですか

④ かいわとぶんぼう

②、③でスケジュール調整のための談話を段階的に学んでいる。残業という語いは成人には身近な語い。「～は、だめです」は、A1 レベルの学習者としては便利な表現。「すみません」といっしょに使い、言い方に気をつけることで、きつく聞こえないようにしたい。

⑤ どっかい

スケジュール調整を文で読む。学習者がスケジュール帳を持っていれば、日本語で書くように勧めると楽しい。

トピック6 やすみのひ1

第11課 しゅみは なんですか

① もじとことば

① ことばを分類する。<ごいちょう>を使えばより豊かな語い提示ができるだろう。

② かいわとぶんぼう

パーティーなどでの自己紹介の会話場面を想定。趣味と好きなジャンルを聞くと、その人について少しわかったような気がする。②は4人のキャラクターがどんな人か、自分がだれに近いのか、考えて楽しんでほしい。

③ かいわとぶんぼう

文型は「～ができます」「～はできません」。この課では外国語や外国の文化を対象にした会話にしている。①や②の会話に出てくる、趣味のひとつとして外国語や外国の文化を学ぶ人たちは、まさに学習者自身のことを表している。自分にひきつけて楽しく練習してほしい。



④ かいわとぶんぼう

休日の過ごし方について、動詞文（～ます）と付随する要素（場所「～で」／頻度「よく／時々／あまり／ぜんぜん」）で表現する。[2]は4つの活動について、まず、学習者に自分ならどこですか考えてもらい、その後で音声を聞くことでおもしろさが増すはず。[3]は円グラフをよく見て答える。休みに買い物をするかどうか男女別にまとめたもの。一般に女性のほうが買い物好きだという印象がありそうだが、学習者の国や学習者自身はどうか考えてみる。

⑤ どっかい

友だちになりたい人を求めて、自己紹介文を読む。漠然と読むよりも読む動機を高めることができる。

第12課 いっしょに いきませんか

① もじとことば

巻末資料 (p.193 カレンダー) を参照して答える。

② かいわとぶんぼう

イベントのポスター等を見ながらの会話の中で、そのイベントの日時と場所を言うための文型「(いつ)に (どこ)で (なに)が あります」を学習する。会話でのやりとりというよりも、[3]-①のように資料をもとに事実を記述するための形式として捉える。ここでは、動詞「あります」はイベントが行われる意味での「あります」。ものの存在や所在を表す「あります」(へやにエアコンがあります)は第7課、第14課。

③ かいわとぶんぼう

休日の活動に関する会話を行うために、動詞の活用形(ます形)を使った表現を使う。

[2]は目的を表す「V-マス にいきます」。ただし使用する動詞は、この課のトピックに沿った語にしぼっている。(見る、聞く、買う、写真をとる、カラオケをする)

[3]も[2]と同じくV-マス形を使った表現で、誘いと誘いに対する同意／賛意を示す機能をもったもの「いっしょにVませんか」「Vましょう」。このようなやりとりは、ペアでの練習が望ましい。

④ どっかい

友だちを外出に誘うのに、Eメールは便利な手段である。ここではEメールのテキストを読んで、情報をとる。

トピック7 まち

第13課 どうやって いきますか

① もじとことば

[1]乗り物(a-e)と乗る場所(f-j)の選択肢の位置がわかりづらいかもしれないので、確認する。



②この問題には、正解が 1 つしかないわけではない。なぜ違うか、その根拠がはっきりしていればどれを選んでもよい。

⑤「～口」の読み方は「入口」「出口」の「ぐち」。顔のパーツ「口」(くち)としての導入ではない。

②かいわとぶんぼう

移動経路と交通手段について話すための文型「(出発点) から (到達点) まで / (手段) でいきます」を取り上げた。イラストを理解の助けにしてほしい。

③かいわとぶんぼう

②と同様に、移動経路と交通手段を表す「(場所) で (交通手段) にのります / をおります」。助詞がだいぶ増えてきたので、整理が必要。

④かいわとぶんぼう

ホテルなどでの、目的地までの交通手段に関するやりとりを想定している。②は会話を聞く前に、まず 4 人の状況を確認し、選択肢の見方などを確認しつつ、学習者だったらどんなアドバイスをするか考え、予測してみてもよい。

⑤かいわとぶんぼう

タクシーの運転手と乗客の会話。場面との関係性が高い会話であり、言語能力を駆使して会話文を作るよりも、むしろ、一般的な会話をまず聞いてほしい。したがって手順としては、まず会話を全部聞く、残った記憶を頼りに表現を選ぶ、もう一度聞いてチェックする、という流れになる。選択肢は隠して聞いたほうがよい。

⑥どっかい

パーティー会場までの行き方、当日の集合方法などについての、Eメールのやりとりを読む。理解を確認するために、読んだメールをメモに書き直したものを選択肢としている点の特徴。

第 14 課 ゆうめいな おてらです

②かいわとぶんぼう

自分の町がどんなところかを、友だちに話すという場面設定。②の形容詞を使った名詞修飾は、イ形容詞とナ形容詞を学習者自身が考え、発見できるように誘導する。③は存在文「(場所) に (もの) があります」。学習者の町について文を書き、それをペアで言い合うという活動。①の会話に近いやりとりができるとうよい。

③かいわとぶんぼう

待ち合わせに来ない友だちに電話をして、今どこにいるのか確認するという場面設定。自分のいる場所をより詳しく説明するために②では「(たてもの) は (～のまえ / うしろ / ...) にあります」という形式を導入する。③は人の存在を表す「います」を使った練習。

③ どっかい

文を地図と照合する。文を読む前に、地図を見てわかることを言ってみる。町にある施設



の名前（美術館、レストラン、など）だけでも言えればよいが、位置関係まで含めて言えればさらによい。学習者の反応が前者の場合、2 番の文(a-f)を読むことで復習になる。

トピック 8 かいもの

第 15 課 かわいい！

トピック 8 の<かつどう>が、買い物行動や店でのやりとりが中心になるのに対して、<りかい>は、買い物やプレゼントについての交流的な会話になる。そのため、扱う文型が異なるので注意。

① もじとことば

②の助数詞は使い分けがわかり、必要なものが使えばよい。覚えるまで練習しなくてよい。

（巻末資料 p.192 参照）

② かいわとぶんぼう

カーラさんの誕生日が近いので、鈴木さんはカーラさんにほしいものを聞いている。②の

①はもう少し広げて、ほしいものについて一般的に話す。

③ かいわとぶんぼう

②の①は、会話の音声が一文で要約されている点の特徴である。やや難度が高い。

④ かいわとぶんぼう

話題のきっかけとして、相手の持ち物をほめることはよくあると思われるが、自分の文化ではどうか考えてみるとおもしろい。「買う」「もらう」は、「買った」「もらった」ことを話題にすることが多いので、過去形（肯定、否定）で学習する。過去形ははじめて学ぶので、このトピックで扱う 3 つの動詞以上には教えなくてよい。③の①は(1)なにを、(2)だれに、もらったか段階的に聞く。文字を書くのには時間がかかるので、③の②は 2 つ書ければよい。A1 レベルの学習者が、このような説明的な文を発話する必要性は低いので、口頭練習はしなくてよい。同様に、④も「～を もらいました」「～に もらいました」と 2 つに分けて、短く自分のことを話せればよい。

⑤ どっかい

ロベルタさんとさかいさんは友だち（第 7 課）

⑥ さくぶん

先週買ったものを説明するために文を書くという場面設定なので、(買ったもの)の枠には、イラストをかいたり、写真やレシート等をはる。

第 16 課 これ、ください。

② かいわとぶんぼう

<かつどう>と異なり、「これ、それ、あれ」の 3 つを学ぶが、話し手から近い（コ系）、話し手から遠いところ（ア系）、その中間（ソ系）という簡単な説明でよい。数字の読み方は、p.192 を参照。



② かいわとぶんぼう

構造図は「～をください」だが、<かつどう>と共通の場面である、p.147の会話では、「これ、ください」と助詞が脱落している。話しことばでは助詞の脱落がおきやすいと簡単に説明する。実際に聞こえている通りに聞き、助詞なしで言えるようになることを目指したい。

トピック9 やすみのひ2

最後のトピックとして、これまでのトピックの復習をする。

第17課 たのしかったです

① もじとことば

② 形容詞の意味はイラストでははっきりと表現しきれない場合がある。ここでは正解を1つとしているが、複数の答えが学習者から寄せられる可能性もあるので、訳語を使うなどして、学習者が表現したい意味と日本語の意味にズレがないか確認する必要がある。

② かいわとぶんぼう

休日にしたことを話す、休み明けの雑談の場面。過去形を使って話すことになる。休日の活動を言うために動詞過去形（「Vました」「Vませんでした」）、どうだったか感想を表すために形容詞過去形（「イかったです」「イくなかったです」「ナでした」「ナじゃなかったです」）を導入、練習する。イ形容詞過去否定形「イくありませんでした」は導入しない。

③ かいわとぶんぼう

②と同じく休日の活動について話す場面を想定しているが、こちらは、こちらは特別なことは何もなかった人たちの話。「どこにも／なにも Vません（でした）」という形式を取り上げた。休日だからといってだれもが精力的に出かけるわけではない。学習者の中にも同じような人が少なからずいるのではないか。大切なことは自分のことが言えるようになることである。

③ どっかい

休日のことを書いたブログを読むという設定。音声聞きながら読むのもお勧め。声の調子から書いた人の人物像や気持ちが浮かび上がってくるおもしろさがある。

第18課 つぎは きょうとに いきたいです

① もじとことば

⑤ 「日本」は「にほん」と「にっぽん」の2通りの読み方がある。

② かいわとぶんぼう

日本旅行中の体験について友だちに話すという場面設定。順を追って体験を話すために、②では接続詞「それから」を使った練習をする。ここではメモを使って文作成をするので、まずメモと例題をよく見て、メモの内容がどのように文になっているかを確認したほうがよい。手順としては、メモを見る→自分でどんな文が適当か考えてみる→選択肢を見て自



分の考えた文と照合しつつ一番いい答えを選ぶ、というようになるだろう。時間がなければ、メモを見て、すぐに選択肢から文を選ぶことも可能。東京近辺の地理についてはイラストを参照してほしい。

③ かいわとぶんぼう

旅行中体験したことについてのコメント、感想を言う場面。そのために「でも」か「そして」を使って、2つの形容詞文をつなぐ。

下の例の B-1 のように、否定的なコメントだけを言うと大人の発話としては不適切に聞こえるところを、B-2 のように「でも」を使うことで結論として肯定的にも持っていける点が実用的と言えるだろう。その場合、「でも」の後ろの文に肯定的意味を持つ形容詞を使うことを確認する。

{	A : そばはどうでしたか。	}
	B-1 : たいへんでした。	
	B-2 : たいへんでした。でも、おいしかったです。	

④ かいわとぶんぼう

今回の旅行での体験に続けて、「Vたいです」を使って次回は何をしたいかという、将来の話につなげる。今回は経験しなかったことを、次回はやってみたいという意志を表現する。否定形「Vたくないです」はこの文脈では使いづらいので、活用練習のみにとどめた。

⑤ どっかい

2人の人の旅行について読み、内容を理解する。やや長いですが、この課の復習として読んでほしい。ワンさんのバックの写真は、浅草寺の五重塔。山田さんは広島へ行ったが、その感想は「とてもよかったです。そして、きれいでした。」と肯定的で単純。けれども次にいきたいところは「長崎」。これもまた原爆投下の犠牲になった地である。広島と長崎の2つの場所の共通点を考えてほしい。

以上